

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年2月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0272701137
法人名	有限会社 赤ずきん
事業所名	グループホーム 赤ずきん
所在地	青森県三戸郡南部町大字大向字泉山道28-1 (電話)0179-20-1717
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年10月26日

【情報提供票より】(平成21年9月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	16人, 非常勤 4人, 常勤換算 14人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 8,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,050 円	

(4)利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	三戸中央病院 北村歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームはりんご畑に囲まれており、地域の山である名久井岳を望むことができる環境にある。
「その人らしく地域の中で、暮らし続けていけるよう、一人ひとりを尊重し、輝かしく生きる支援する」という理念を掲げ、職員は理念カードを携帯し、常に振り返って確認できるよう取り組んでいる。
町内会に加入し、毎月行われる清掃活動に利用者と職員が参加したり、近隣の住民が花や古新聞を届けてくれるなど、地域住民との交流を深めている。
利用者・家族の希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、職員が受診介助を行っており、受診結果を家族に報告している。
利用者は職員と一緒にプランターで野菜を栽培したり、カメラの得意な方は、集合写真のカレンダーを作成したり、利用者が刺した文化刺繍を飾るなど、一人ひとりが得意分野で力を発揮できるよう支援している。
八戸地域グループホーム協議会に加入している。また、地域10カ所のグループホームが2ヶ月に1回、当番制で交流会を開催しており、同業者と情報交換等を行う場を確保し、日々のサービスの向上や職員育成につなげている。

【特に改善が求められる点】

職員が個々の能力に応じて段階的且つ平均的に研修が受けられるよう、前年度の研修主催者に問い合わせるなどして年間研修計画を作成することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果をもとに、やむを得ず身体拘束を行なう場合の期間・方法・経過について記録し、家族から同意を得る体制を整えるなど、改善策を話し合い、取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は評価のねらいや活用方法を理解している。また、自己評価は全職員の意見を出し合い、各棟主任がまとめて作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、利用者・家族の各代表、町内会長、社協、役場ケアマネジャーがメンバーとなり、2ヶ月に1回開催している。会議では自己評価について説明するほか、行事計画や外部評価の結果を報告し、意見交換を行うことで、今後のホーム運営の向上につなげている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族が意見や要望等を話しやすい雰囲気作りに努め、玄関に意見箱を設置している。運営推進会議や職員会議で検討し、今後のケアに反映させている。内部・外部苦情相談窓口を明示し、利用者や家族等に周知を図っている。</p> <p>毎月、利用者の写真等を掲載したホーム便りを発行し、健康状態や受診状況、金銭管理、暮らしぶり等を報告している。職員の異動等については、家族の面会時にお知らせしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、毎月行われる清掃活動に職員と利用者が参加している。また、近隣の住民が花やホームで使う新聞紙などを届けてくれるなど、気軽に立ち寄ってもらえる関係を築いている。さらに、ホーム行事を町内に案内する取り組みが定着しており、交流を図っている。年に1~2度、中学生や高校生の実習やボランティア等を受け入れ、ホームの持つ専門性や実践経験を地域に還元している。</p>
重点項目④	

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>玄関やホールに理念を掲示するほか、職員会議で話し合うことで全職員で理念を共有している。また、常に理念を確認できるよう、職員は理念カードを身に付け、日々のケアに反映させている。</p> <p>契約時は、重要事項説明書に基づいてホームの理念や方針を説明し、利用者や家族の意見を引き出すよう努めている。退居の際も十分な説明をし、退居先の情報を提供したり、退居後の相談にも応じている。また、入院時などは、利用者や家族の状態に応じて柔軟に支援を行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>ホーム見学を勧めるなど、利用者が安心して入居できるよう支援している。また、ホームの理念や方針について説明を行い、利用者・家族と十分に話し合うことで、双方の意向に沿ったサービス開始となるよう調整している。</p> <p>職員は、利用者の得意なことや楽しみなことを把握し、カメラの得意な利用者が撮った集合写真をカレンダーにしたり、文化刺繍を飾るなど、職員は利用者から学び、支え合って生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者・家族の意見、職員の意見や気づきを基に、ユニット会議で十分話し合い、利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、個別具体的な介護計画を作成している。</p> <p>利用者や家族等が希望する医療機関を受診できるよう、支援している。また、協力医療機関を確保し、いつでも相談等を行うほか、週2回、看護師が訪問し、利用者の健康管理に努めている。医療機関と家族を交えた話し合いが行われており、受診結果等を共有している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者のプライバシーに配慮し、職員は一人ひとりの言動を尊重した対応を行っている。</p> <p>利用者は職員と一緒にプランターで野菜を栽培するほか、カメラの得意な方は、集合写真のカレンダーを作成したり、利用者が刺した文化刺繍を飾るなど、一人ひとりが得意分野で力を発揮できるよう支援している。</p> <p>身体拘束廃止委員会を設置しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。やむを得ず拘束を行う場合は、その方法や期間、経過観察等を記録することとし、家族等に説明を行い、同意を得ている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく地域の中で、暮らし続けていけるよう、一人ひとりを尊重し、輝かしく生きる支援する」という地域密着型サービスの役割を反映させたホーム独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やホールに理念を掲示するほか、職員会議で話し合うことで全職員で理念を共有している。また、常に理念を確認できるよう、職員は理念カードを身に付け、日々のケアに反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し、毎月行われる清掃活動に職員と利用者が参加している。また、近隣の住民が花やホームで使う新聞紙などを届けてくれるなど、気軽に立ち寄ってもらえる関係を築いている。さらに、ホーム行事を町内に案内する取り組みが定着しており、交流を図っている。年に1～2度、中・高校生の実習やボランティア等を受け入れ、ホームの持つ専門性や実践経験を地域に還元しており、受け入れる際には利用者のプライバシーについて十分説明している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価のねらいや活用方法を会議等で周知し、職員は理解している。自己評価を作成する際は、全職員で取り組み、主任がまとめている。外部評価の結果を基に、運営推進会議や職員会議で検討し、今後のケアサービスにつなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者・家族の各代表、町内会長、社協、役場ケアマネジャーがメンバーとなり、2ヶ月に1回開催している。会議では自己評価について説明するほか、行事計画や外部評価の結果を報告し、意見交換を行うことで、今後のホーム運営の向上につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政に自己評価や外部評価の結果を報告し、ホームの実態や課題を共有している。必要に応じて課題解決に向け、行政との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、外部研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解している。また、伝達講習を行い、職員は制度について理解している。現在、制度の利用者はいないが、必要に応じて情報提供の支援を行い、利用に繋げるよう努めている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は外部研修やその後の、伝達講習を通して、高齢者虐待防止について理解を深めるよう取り組んでいる。また、声がけ等で虐待を未然に防ぐよう努めている。虐待を発見した場合は管理者に報告することになっており、職員は勉強会等で理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書に基づいてホームの理念や方針を説明し、利用者や家族の意見を引き出すよう努めている。退居の際も十分な説明をし、退居先の情報を提供したり、退居後の相談にも応じている。また、入院時など、利用者や家族の状態に応じて柔軟に支援している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の写真等を掲載したホーム便りを発行し、利用者の健康状態や受診状況、金銭管理、暮らしぶり等を報告している。職員の異動等については、家族の面会時にお知らせしている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や要望等を話しやすい雰囲気作りに努め、玄関に意見箱を設置している。運営推進会議や職員会議で検討し、今後のケアに反映させている。内部・外部苦情相談窓口を明示し、利用者や家族等に周知を図っている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は担当職員の交代による、利用者への影響を理解しており、職員の異動を年1回とするなどの配慮を行っている。職員の異動を行う際は、利用者の状態に応じて十分な説明を行うほか、詳細な引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の業務に関する相談等は管理者が対応している。また、管理者は、職員の育成の必要性を認識し、個々の経験や力量に応じた研修の参加を促している。受講後は報告書を作成し、会議での報告や回覧等で伝達を行っているが、職員が段階的・平均的に研修が受けられるよう、年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	職員が個々の能力に応じて段階的且つ平均的に研修が受けられるよう、前年度の研修主催者に問い合わせるなどして年間研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸地域グループホーム協議会に加入している。また、地域10カ所のグループホームが2ヶ月に1回、当番制で交流会を開催しており、同業者と情報交換等を行う場を確保し、日々のサービスの向上や職員育成につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学を勧めるなど、利用者が安心して入居できるよう支援している。また、事業所の理念や方針について説明を行い、利用者・家族と十分に話し合うことで、双方の意向に沿ったサービス開始となるよう調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の得意なことや楽しみなことを把握し、カメラの得意な利用者が撮った集合写真をカレンダーにしたり、文化刺繍を飾るなど、職員は利用者から学び、支え合って生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや意向を把握するように努め、十分に把握できない場合は、全職員で利用者の行動や言動を観察し、把握するよう努めている。必要に応じて家族や関係者等から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見、職員の意見や気づきを基に、ユニット会議で十分話し合い、利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、個別具体的な介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間を6ヶ月と明示し、定期的に行っている。また、利用者の身体状況や家族・利用者の希望等の変化に応じて、随時見直しを行っている。見直しを行なう際には、利用者や家族等の意向、職員の気づき等を収集し、再アセスメントを行い、現状に合った介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に	利用者の受診や買い物の支援を行うなど、利用者や家族等の希望に応じて、柔軟な対応を行っている。また、毎年9月に「赤ずきん祭り」を開催し、地域の祭りとして		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等が希望する医療機関を受診できるよう、支援している。また、協力医療機関を確保し、いつでも相談等を行えるほか、週2回、看護師が訪問し、利用者の健康管理に努めている。医療機関と家族を交えた話し合いが行われており、受診結果等を共有している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは重度化に対応するという方針を明確にしており、重度化に備え、利用者・家族・医療機関と話し合いを行い、意思統一を図っている。将来は終末期にも対応する考えである。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮し、職員は一人ひとりの言動を尊重した対応を行っている。また、介助時等の羞恥心にも配慮し、適切な対応を心掛けている。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、利用者の個人情報等は訪問者の目の付かない場所に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、個々のペースに合わせて職員と一緒に行動している。また、その日の体調等にも配慮し、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手な物を把握し、好みや状態に合わせた献立を作成している。利用者は身体状況等に応じて職員と一緒に食事の準備等を行っている。また、職員は弁当を持参し、利用者と一緒に食事をしているほか、検査も行い、楽しい食事となるよう努めている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣を把握し、週2回入浴日を設けているが、利用者個々の希望に応じた入浴を行っている。また、職員は利用者の入浴に対する羞恥心等に配慮し、入浴が楽しめるよう支援している。入浴を拒否する際は、声かけを工夫したり、足浴を行うなどの対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は職員と一緒にプランターで野菜を栽培したり、カメラの得意な方は、集合写真のカレンダーを作成したり、利用者が刺した文化刺繍を飾るなど、一人ひとりが得意分野で力を発揮できるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など日常的に外出しているほか、年1回の長距離ドライブや花見、りんご狩りなど、利用者の希望を取り入れているほか、外出の際は車椅子等での移動方法に配慮するなど、利用者の身体状況等に応じた対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会があり、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。やむを得ず拘束を行なう場合はその方法や期間、経過観察等を記録することとし、家族等に説明を行い、同意を得ている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には施錠せず、居室等も自由に出入りすることができる。職員は利用者の外出傾向を見守り、外出傾向を察知した際は付き添っている。やむを得ず施錠する場合は、家族に説明を行い同意を得ているほか、無断外出時に備え、町内会への協力を働きかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回、昼夜を想定した避難訓練や、消防署の協力を得て消火訓練を行っている。災害発生時に備え、住民の理解や協力が得られる体制が整っているほか、食料等の備蓄品も準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立を作成し、摂取カロリーを1300キロカロリー、水分摂取量を1000CCを目安に、食事や水分の摂取量を記録している。利用者の栄養摂取状況や献立等について栄養士から助言・指導を得ている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	最新の感染症に関する情報を収集し、ポスターを掲示したり、便り等で家族に周知することで、感染症の予防に努めている。また、面会時は手洗いやうがい等の協力を得ている。感染症に関するマニュアルを作成し、定期的に見直しているほか、勉強会等を行い全職員に周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く広く明るいホールにはソファが置かれ、静かな音楽が流れている。観葉植物や利用者の作品が飾られ、台所からはホールが見え、利用者の様子が把握できる作りとなっている。ホールからは車椅子で庭に出られるようスロープがある。窓の外ははりんご畑があり、外を眺めると季節を感じることができる。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや位牌、カメラ等、利用者が使っていた物を持ち込んでいる。また、利用者の意見を聞きながら、写真を飾ったり、ベッドの配置を決めるなど、その人らしい、居心地の良い居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。